1－3　現況解析及び計画に向けての課題

1）解析の視点

ここでは、鎌倉市の緑の現況を、次のような視点から解析する。

①環境保全解析
- 都市の骨格形成
- 環境負荷の低減
- 歴史的風土
- 自然特性　※
- 自然との共生（ビオトープ）
- 良好な市街地環境

②レクリエーション解析
- 市民のレクリエーション活動の場
- 来訪者の観光・レクリエーション活動の場

③防災解析
- 崖崩れ等の自然災害
- 地震に伴う津波災害
- 地震に伴う市街地火災等の災害
- 災害時の避難・復旧

④景観解析
- 鎌倉市の景観特性と緑の景観資源
- 市街地景観と緑の現状

注）※ビオトープとは野生生物の生息生育空間を意味しており、こうした野生生物の生息・生育や移動に必要な空間を都市内に計画的・系統的に組み入れて、人々と他生物が共存できる良好な都市環境の形成を図っていく計画をビオトープネットワーク計画という。

2）環境保全解析

(1)都市の骨格形成

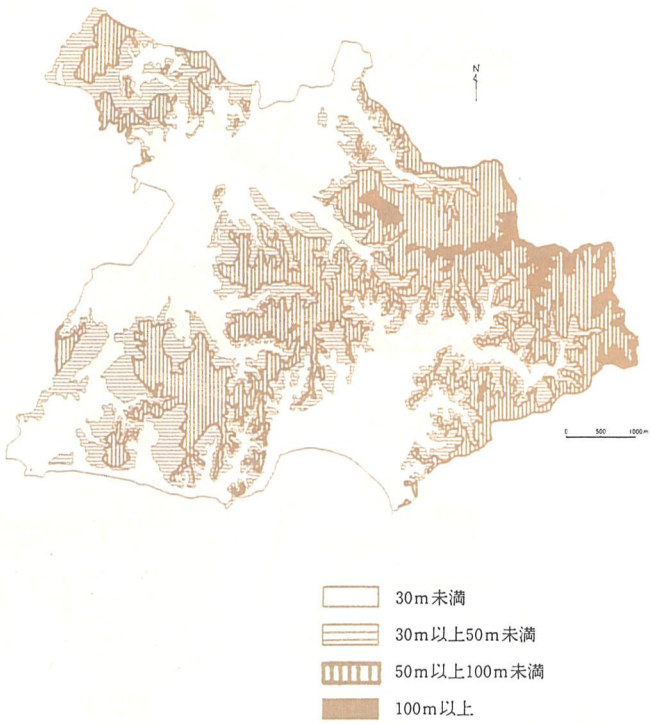
・鎌倉市の地形は、滑川沿い・柏尾川沿いの２つの低地とこれを取り巻く形で連なる標高50～150m程度の丘陵性地形及び海岸線からなっており、この丘陵地と海岸線の緑地が市街地を規制し、都市の骨格を形成している。

・このうち都市の骨格を形成する丘陵の緑地は、地形の構造や緑地のまとまりから次の３つのレベルに区分される。

- 緑の骨格軸 ― 全市レベルでの緑の骨格を形成する緑地。大平山－巨福山－稲村ヶ崎、大平山－十二所、十二所－衣張山－名越切通しの３つの軸が設定される。
- 緑の支軸 ― 骨格軸を補完する地域レベルでの緑の軸となる緑地
- 緑の枝 ―― 支軸を補完する緑の軸を構成する緑地

（図１－11　参照）

図１－９　地区図（等高線図）



・鎌倉市では、昭和50年代以降大規模な宅地開発等は見られないものの、小規模な開発は進行しており、これに伴って前記の骨格を形成する丘陵や海岸線沿いの緑地も、緑の保全制度の適用を受けないものや、制度の適用を受けていても担保力に限界のあるものについては、次第に減少・細分化する傾向にある。

・一方、市街地内においては、滑川、柏尾川、神戸川、新川、砂押川、小袋谷川等の水系と若宮大路が緑の骨格を形成する要素として挙げられる。

このうち水系については、川沿いの市街化によってその存在がわかりにくくなっているものや、自然的環境が失われつつあるものなど、緑の骨格としての機能が低下しているものが見られる。

図１－10　宅地開発動向

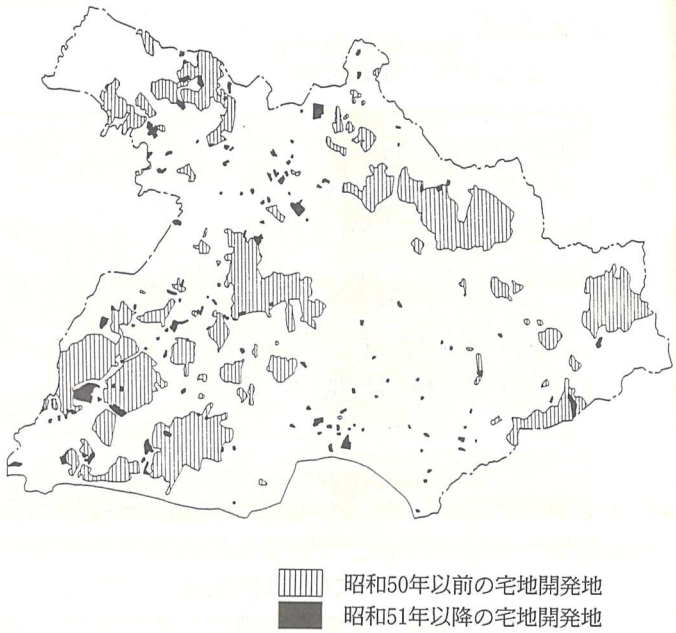
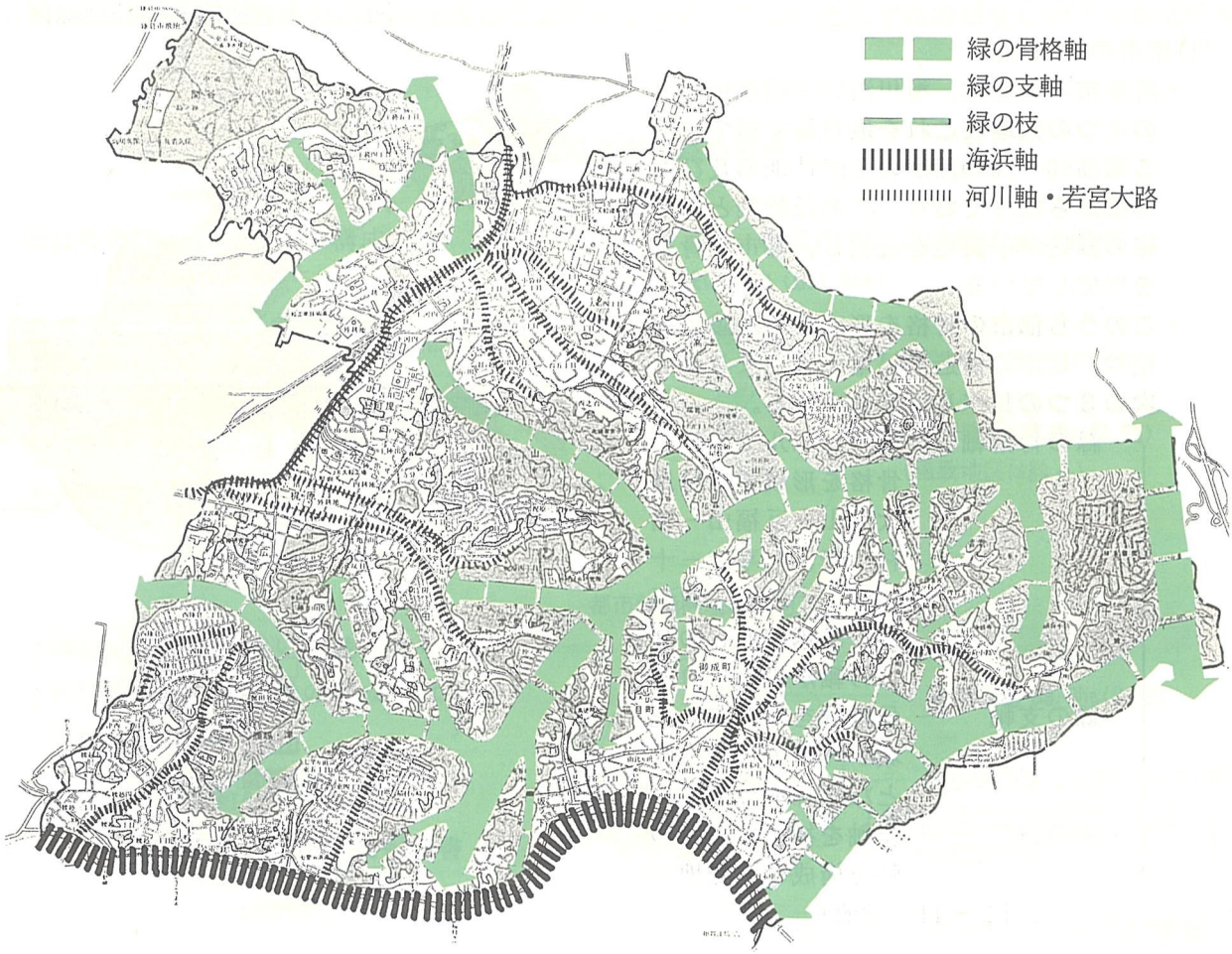


図１－11　都市の骨格形成に係る緑の構造



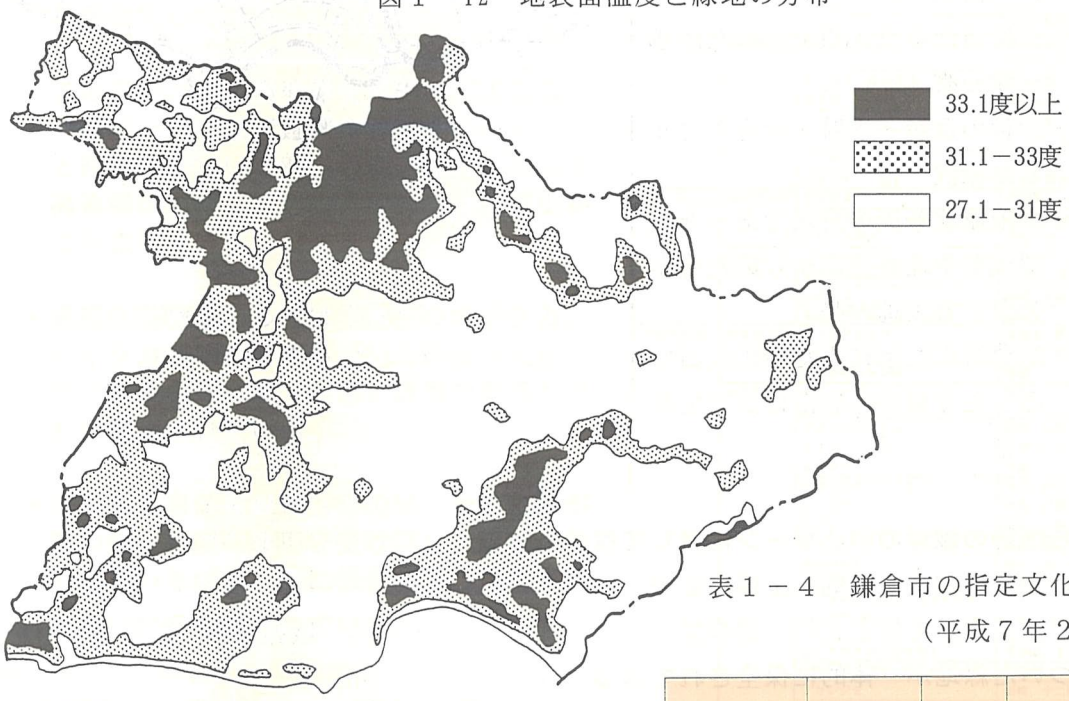
(2)環境負荷の低減

ランドサットデータを用いた地表面温度分布調査では、ＪＲ大船駅周辺や岩瀬及び寺分の工業地域において地表面温度の高い地点が見られるほか、市街地の連担する大船・玉縄・深沢地域において高温地域が広く形成されている。

この一方で、市街地の背後には台地・丘陵地の山林・農地や海岸線の緑地によって構成される地表面温度の低いゾーン（クールゾーン）が存在し、市街地に清涼な空気を提供する風の道の役割を果たしている。

また、これらの緑地の周辺市街地では、緑地から流れ出す低温の空気の影響によって他の市街地よりも気温が低くなっており、緑地の存在が都市気象の緩和等の環境負荷の低減に寄与していることを示している。

図１－12　地表面温度と緑地の分布



(3)歴史的風土

・古代からの人々の生活の場であり、また中世の一時期にはわが国の政治・文化の中心地として栄えた鎌倉市は、市域のいたるところに鎌倉時代を中心とする遺跡・史跡、社寺等が分布しており、まち全体が史跡としての性格を備えている。

表１－４　鎌倉市の指定文化財
（平成７年２月現在）

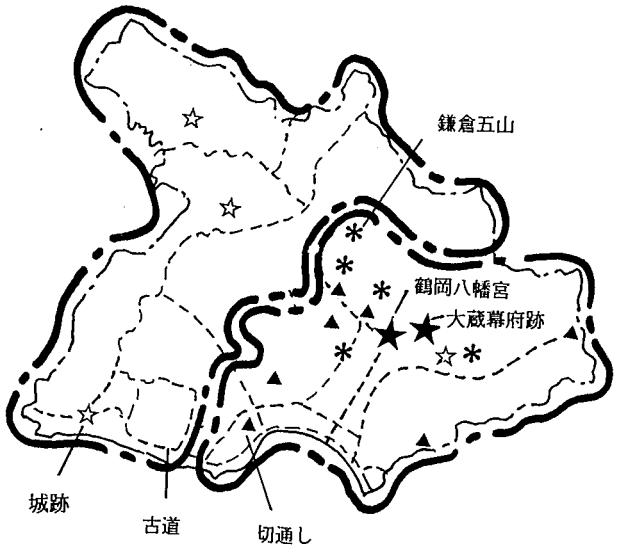
区分	建造物	史跡	名勝	計
国宝	1			1
国指定	15	26	3	44
県指定	14	2		16
市指定	23	6		29
計	53	34	3	90

鎌倉市環境基本計画策定基礎調査

・往時の鎌倉は、「鎌倉城」と呼ばれる三方の山々を取り込んだ重層的な構造をもつ都市であったが、その歴史的遺産の分布状況等からは大きく次の２つのゾーンに分けられる。

- 鎌倉時代の遺構群が集積する往時の鎌倉の中心ゾーン
  - 源家の氏神である鶴岡八幡宮、幕府跡、鎌倉五山、七切通し等を含むゾーン
- 上記の中心部を取りまく周辺ゾーン
  - 古東海道に接する鎌倉城の大手口に当たる出入口であった腰越・津一帯
  - 中世の遺産・史跡・社寺の分布する深沢一帯
  - 小田原北条氏の支城であった玉縄城跡や北条氏ゆかりの社寺が分布する玉縄一帯
  - 鎌倉城の搦手に当たる出入口であった今泉から岩瀬にかけての一帯

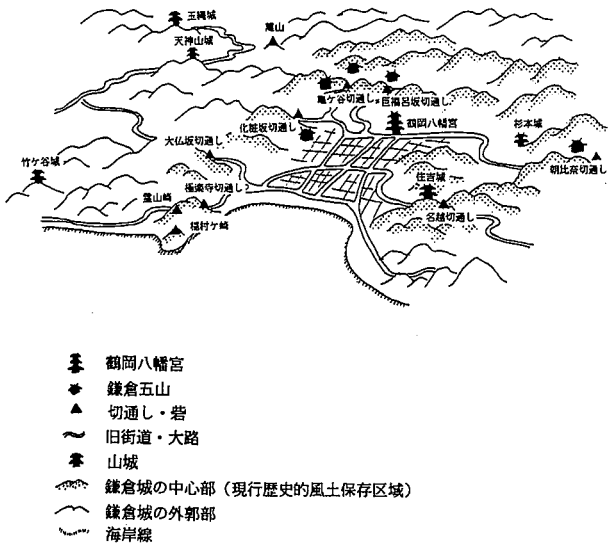
図１－13　歴史的風土から見た鎌倉市の区域区分



・このうち往時の鎌倉の中心ゾーンに対しては、文化財の指定に加え歴史的風土保存区域、風致地区等が重複して指定され、遺構群とそれに結びついた緑地が一体的に保全されているが、周辺ゾーンを構成する緑地については市街化の進行の中で減少し、山々に埋もれている文化財も次第に失われつつある。

・往時鎌倉においては、中心部に設けられた若宮大路、小町大路、武蔵大路、大町大路等以外にも、鎌倉と各地を結ぶ山ノ内道、六浦道等が整備され、古東海道とともに軍事、経済、文化の輸送路としての役割を果たしていた。これらの古道沿いには往時の風景につながる海岸線や社寺・丘陵地の緑が一部残されているほか、様々な歴史上の出来事を伝える地名が今日に継承されている。

図１－14　城郭都市「鎌倉城」の構造



(4) 自然特性

・鎌倉市では、昭和30年代からの高度成長期に丘陵地への宅地開発や墓地開発が進行し、大規模な土地の改変が行われたが、市域には、丘陵地及び海岸線を中心に貴重な自然資源が分布している。

・鎌倉地域を中心とする市街地の後背山地（社寺林を含む）には、スダジイ林（尾根筋）、タブノキ林（谷筋）等の自然林が残存している。
また、稲村ヶ崎、小動岬等の海岸線の風衝地には、マサキートベラ群集、イソギクーハチジョウススキ群集等の海岸断崖植物群落が生育している。

・このほか、自然環境保全基礎調査報告書（環境庁）で保護を図る必要性が特に高いと評価されている別表の貴重な植物群集や植物種が山崎、天台山、十二所、衣張山等に分布している。

・貴重な動物種としては、鳥類のオオタカ、ハイタカを始めとする別表の動物が丘陵地の山林や由比ヶ浜、七里ヶ浜等の海浜を中心に観察されている。

・これらの自然資源の分布地は、その多くが緑の保全制度の適用を受け厳しい規制がなされているが、一部に保全制度の適用を受けない場所も残されている。

表１－５　鎌倉市における貴重な動植物

植　生	生育地
イロハモミジーケヤキ群集	天台山、十二所
ヤブコウジースダジイ群集	巨福山、山崎、梶原、長谷等
イノデータブノキ群集	衣張山、名越切通し
マサキートベラ群集	七里ヶ浜
ハンノキ林	山崎等
イソギクーハチジョウススキ群集	七里ヶ浜等

●植物の貴重種

(注)：◎はレッドデータブックによる危急種

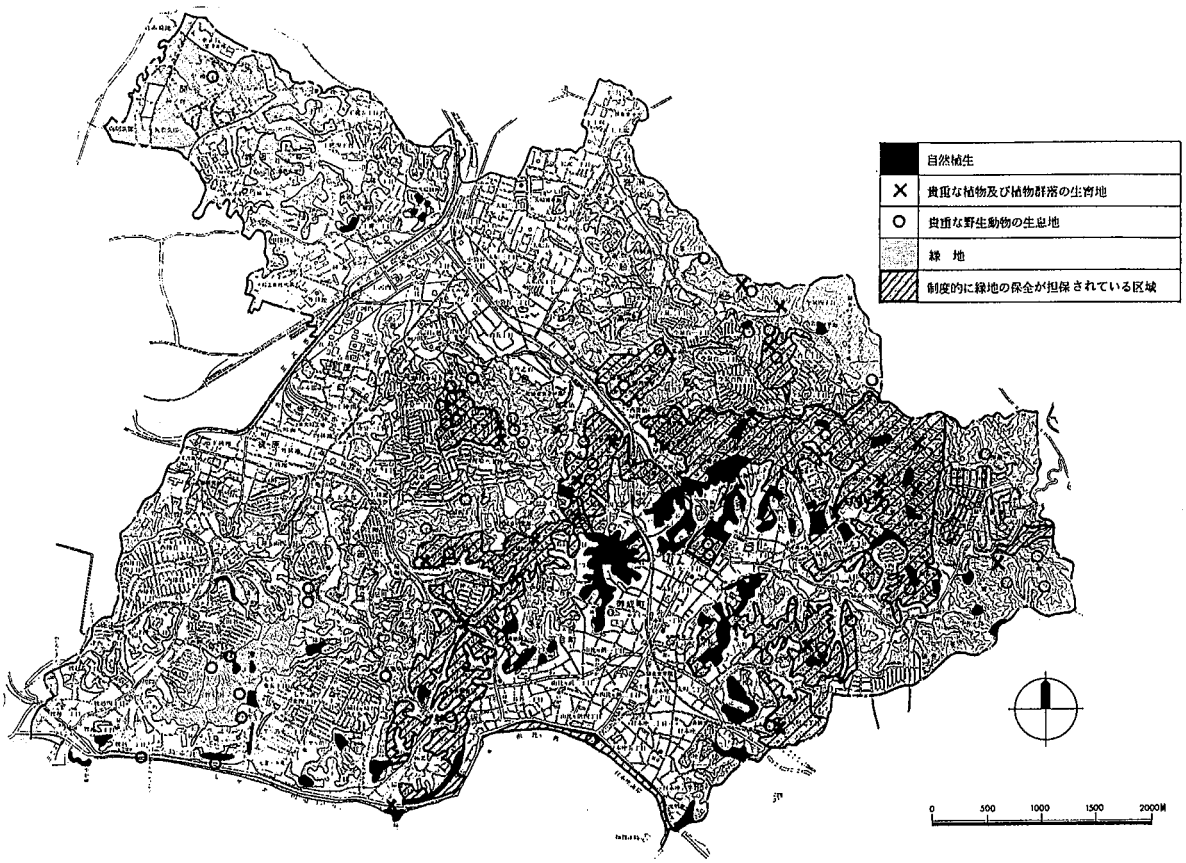
指　定	貴　重　種	生　息　地
県指定一級	スハマソウ	散在ヶ池
	クロヤツシロラン	天台山
	コヒロハハナヤスリ	名越切通
県指定二級	オリヅルシダ、ハイホラゴケ	天台山
◎	トキホコリ	巨福山、山ノ内
◎	ユキヨモギ	長谷・稲村ヶ崎

●動物の貴重性

(注)：1　◎レッドデータブック危急種　　○レッドデータブック希少種
　　2　一級種、二級種の評価区分については、植物と同じ
(出典：地域環境評価書、神奈川県)[57]

	指　定	貴　重　種	生　息　地
鳥　類	県指定一級	ツミ	散在ヶ池、山ノ内
		ゴジュウカラ	山ノ内
	◎○	オオタカ、ハイタカ	山崎
		アオゲラ	山崎、梶原、衣張山
		キビタキ	梶原
		ノスリ	腰越、七里ヶ浜
	県指定二級	コゲラ	今泉、散在ヶ池、天台山、巨福山、梶原 梶原四丁目、笛田、十二所
		カッコウ、オシドリ	散在ヶ池
		エナガ	散在ヶ池、梶原
		カワセミ	散在ヶ池、巨福山、山崎
		ルリビタキ	山ノ内、長谷・稲村ヶ崎
		ミソサザイ	山ノ内
		ヒクイナ	長谷・稲村ヶ崎
爬虫・両生類	県指定一級	クサガメ	六国見山、山崎
		シロマダラ	山ノ内、腰越
	○	アカウミガメ	由比ヶ浜
	県指定二級	ニホントカゲ	散在ヶ池、六国見山、長谷・稲村ヶ崎
		ニホンマムシ	山ノ内、名越切通
		ヒバカリ	山崎、長谷・稲村ヶ崎
		シュレーゲルアオガエル	山崎
魚類その他	県指定一級	ホトケドジョウ	天台山、巨福山、山崎、腰越、十二所
昆虫類	県指定一級	ベーツヒラタカミキリ	天台山、巨福山、衣張山
		ムスジイトトンボ	笛田
	県指定二級	コアトワアオゴミムシ クロサマメゴモクムシ	関谷
		タオマメゴモクムシ	関谷、山崎
		オオミドリシジミ	今泉、山崎、梶原四丁目、腰越、十二所
		オナガアゲハ	今泉
		ウラゴマダラシジミ	今泉、山崎、梶原四丁目、十二所
		テングチョウ	今泉、巨福山、十二所
		ウラナミアカシジミ	今泉、山崎、十二所
		ミドリシジミ	散在ヶ池、山崎
		ホソバセセリ	散在ヶ池、十二所
		ニセマメゴモクムシ クギヌキヒメジョウカイモドキ クロトゲハムシ アカマダラコガネ	天台山
		ムネアカクロジョウカイ	天台山、十二所
		ムラサキシジミ、アオバセセリ	巨福山
		アカシジミ	山崎、十二所
		ゴイシシジミ	山崎、腰越
		マルタンヤンマ	山崎、笛田
		コシボソヤンマ ヒロムネナガゴミムシ	山崎
		モノサシトンボ、アオイトトンボ	笛田
		ミズイロオナガシジミ トラフシジミ、アサギマダラ フタコブルリハナカミキリ アオドウガネ	十二所
		ツヤハマベエンマムシ カラカネハマベエンマムシ ニセマグソコガネダマシ ヒメホソハマベゴミムシダマシ マルチビゴミムシダマシ ヤマトケシマグソコガネ	七里ヶ浜
		ハマヒョウタンゴミムシダマシ	七里ヶ浜、由比ヶ浜
		ヒメハマベエンマムシ オオスナゴミムシダマシ ハマベキクイゾウムシ	由比ヶ浜

図１－15　貴重な動植物の生息・生育地

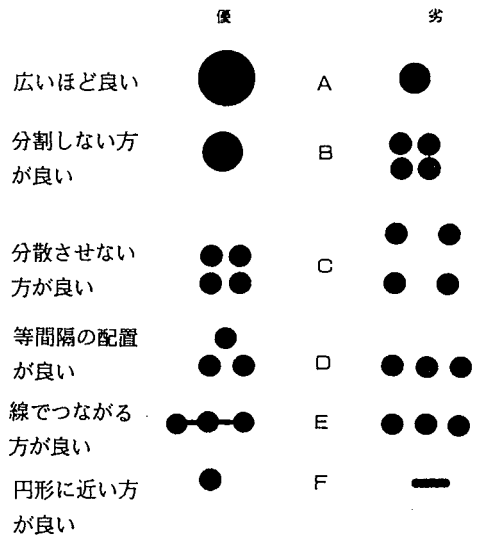


(5)自然との共生（ビオトープ）

・ビオトープの整備では、野生生物の生息に適した自然環境をもつ面的、線的、点的な緑地空間が様々な形態で都市内に配置され、ネットワーク化されていることが求められる。

・鎌倉市では、市街地背後の丘陵地を中心に、野生生物の生息地となる面的な緑地空間が広がっているものの、一方で、市街地内に野生生物を誘導するための点的な緑地（小規模な樹林地、農地等）は減少しており、これらをつなぐ線的な緑地（河川等）も野生生物の生息に適さない構造の区間が続いている。

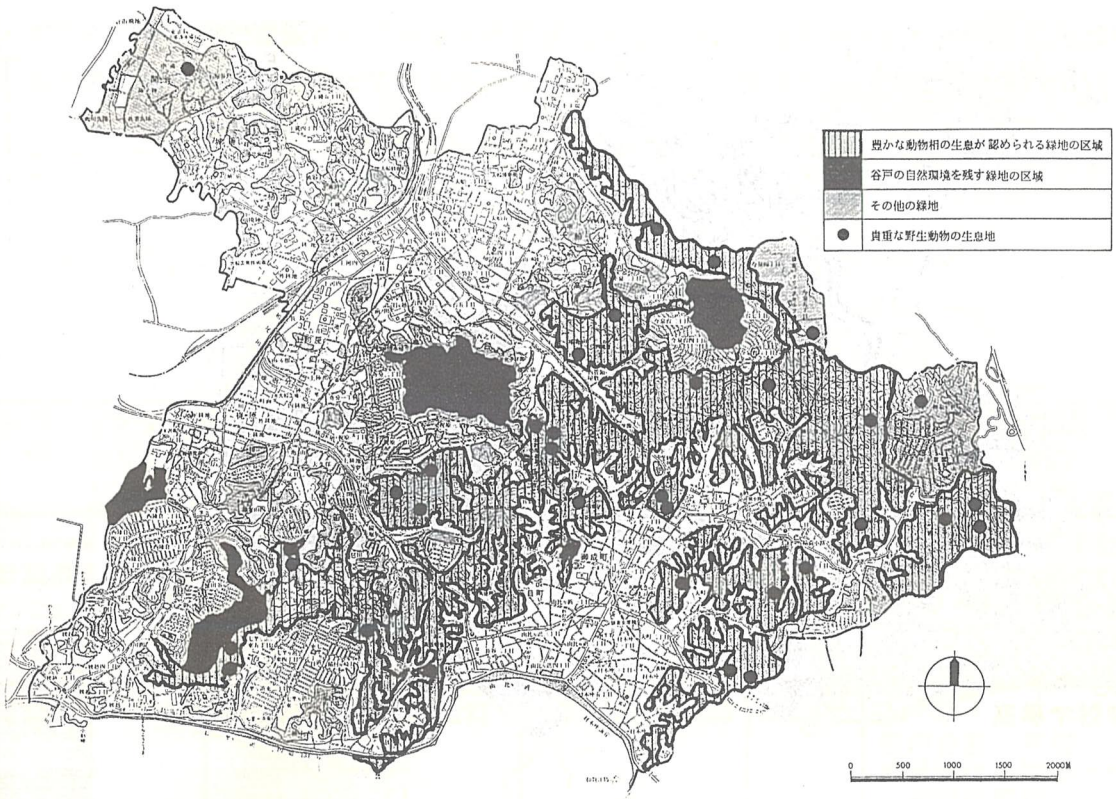
図１－16　ビオトープ空間整備の考え方



・また、ビオトープネットワークの面を構成する丘陵地の自然も、実際には尾根部沿いの斜面地の自然が大部分であり、「谷戸から尾根部までの自然環境を一体的にもつ緑地」は数カ所に限られている。

・海岸線については、海浜の自然環境はおおかた保全されているものの、市街化の進行により背後の樹林地とのつながりが弱くなっている。

図１－17　ビオトープネットワークの形成に係る緑地の分布



(6) 良好な市街地環境

①市街地の緑化の状況

・鎌倉市の市街地は、用途や立地、成り立ち等から別表のように類型化される。

・これらの市街地における緑化の状況は様々であり、谷戸部や丘陵の計画宅地開発地では豊かな緑をもつ住宅地が形成されている一方で、大船・深沢地域の鉄道沿いや腰越地域の一部には宅地規模の関係から緑の少ない市街地が広がっている。

・また、豊かな緑をもつ谷戸部の住宅地においても、近年は一部で敷地の細分化とそれに伴う住宅の緑の減少が見られる。

・大船駅・鎌倉駅周辺を中心とする商業系の市街地やＪＲ東海道線沿線に広がる工業系市街地では、一部に豊かな緑をもつ事業所が見られるものの、住工混在地では緑の少ない市街地環境が形成されている。

表１－６　鎌倉市における市街地の類型化

住宅系	谷戸部住宅地
	丘陵の計画宅地開発地
	鎌倉既成市街地
	鉄道及び道路沿いに形成されたスプロール市街地
	腰越の旧漁村集落を中心として形成された既成住宅地
	農住混在地
商業系	駅周辺商業地（鎌倉・大船）
	沿道商業地
工業系	住工混在地

平成６年度鎌倉市都市マスタープラン策定調査報告書

図１－18　市街地類型毎の緑化状況

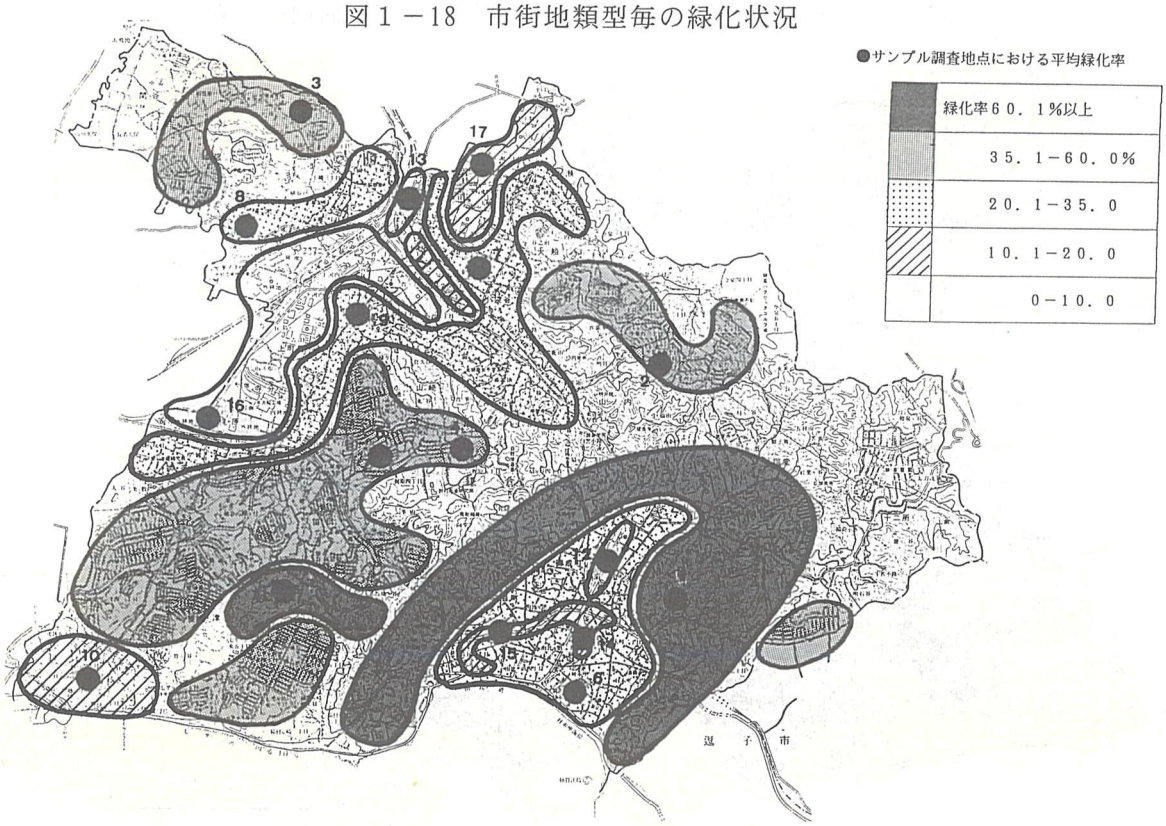


表１－７　サンプル地区における市街地緑化の状況

市街地類型		番号	調査地点	用途地域	風致地区内外	平均敷地規模	空地率	緑化率	接道緑化率
住居系	谷戸部住宅地	1	大町一丁目	第１種住専	内	595m²	69.1%	60.5%	60%
	丘陵の計画宅地開発地	2	今泉台四丁目	〃	内	223	53.4	37.2	70
	〃	3	玉縄五丁目	〃	外	353	62.0	52.5	80
	〃	4	梶原五丁目	第２種住専	内	1,014	64.6	57.0	70
	〃	5	梶原二丁目	〃	外	1,833	77.2	45.1	60
	鎌倉既成市街地	6	材木座五丁目	住居地域	内	223	54.0	21.7	25
	スプロール市街地	7	大船四丁目	第２種住専	外	127	35.1	15.4	35
	〃	8	相模陣	〃	外	223	51.7	29.5	45
	〃	9	天神山	住居地域	外	187	45.4	28.0	45
	腰越既成住宅地	10	腰越二丁目	第１種住専	外	135	40.2	10.7	50
	鎌倉山住宅地	11	鎌倉山二丁目	市街化調整区域	内	925	71.6	65.1	90
商業系	駅前商業地	12	小町二丁目	商業	外	136	12.1	4.9	5
	〃	13	大船駅前	〃	外	797	40.6	4.9	5
	沿道商業地	14	材木座三丁目	近隣商業	外	159	25.8	10.3	10
	〃	15	長谷一丁目	〃	外	241	34.7	28.6	20
工業系	住工混在地	16	手広	工業	外	1,078	38.4	2.0	10
	事業所	17	岩瀬	準工業	外	1,378	36.5	15.8	85

鎌倉市緑化基準調査　平成４年３月

②公共施設の緑化の状況

・市街地内を中心に配置されている公共施設に対しては、平成元年度以降、都市緑化推進計画に基づく積極的な緑化を行っているが、敷地規模等から、緑の少ない施設も残されている。

・街路については、市管理道路の71路線（緑道、プロムナードを含む）に対して緑化を行っており、緑化延長は23.7kmに達している。しかしながら、鎌倉市の市道は幅員の狭い街路がほとんどを占めることから緑化には限界がある。

表１－８　公共施設の緑化の状況

施　設	敷地面積	緑化面積	緑化面積率	植栽本数			接道緑化率	備　考
				高木	中木	低木		
	ha	ha	%	本	本	本	%	
庁舎施設等	8.41	3.12	37.1	416	2,548	3,553	46	市庁舎、支所、公民館、消防署等24施設の合計・平均 接道緑化率は11施設の平均
教育施設	9.96	1.68	16.9	4,923	14,994	8,200	56	小・中・高等学校等37施設の合計・平均 接道緑化率は小・中学校９施設の平均
福祉施設	3.09	0.29	9.3	329	1,674	1,847	64	福祉施設、保育園等23施設の合計・平均 接道緑化率は８施設の平均
衛生施設	5.36	1.78	33.2	165	987	1,096	85	清掃事務所、浄化センター等４施設の合計・平均
街区公園	13.85	6.67	48.2	1,992	6,905	4,854	65	93公園の合計・平均 接道緑化率は19公園の平均
児童遊園	6.55	0.96	14.7	512	1,146	537	54	児童遊園、青少年広場等44施設の合計・平均 接道緑化率は８施設の平均

注）・敷地面積、緑化面積、緑化面積率、植栽本数は鎌倉市緑の現況調査報告書（昭和62年３月）による昭和61年現在の値

・接道緑化率は、鎌倉市緑の現況調査での緑化状況を参考に、現地調査等を行って算出した鎌倉市緑化基準調査（平成４年３月）での値